

2024年度 事業計画書

はじめに.

本学園は、18歳人口の減少、四年制大学志向など、近年の社会的趨勢の影響を受け、長年に渡って定員割れが続き、止む無く2023年9月28日の理事会・評議員会で2025年度以降の学生募集停止を決議した。2024年度生を迎えるにあたっての最優先課題は、2024年度生および現有の在学生の全てを2026年3月末で卒業できるよう万全を期して大学運営を行うことである。そのためには、2026年3月末までの教育保証ができる教職員体制をしっかりと整えること、また、短期大学を閉校するまでの財政基盤を確実にすることである。これらのことを2024年度の最重要課題として諸事業を進めることとする。

1. 法人の概要

(1) 設置する学校の名称および入学定員

・池坊短期大学（入学定員総数 150名、収容定員総数 400名）

文化芸術学科（入学定員 0名、収容定員 0名）募集停止

環境文化学科（入学定員 100名、収容定員 300名）

いけばな・花デザインコース

ブライダルプランナーコース

医療クラークコース

製菓クリエイトコース

トータルビューティーカーコース

国際経営情報コース

幼児保育学科（入学定員 50名、収容定員 100名）

・池坊文化学院（入学定員総数 130名、収容定員総数 200名）休校中

(2) 役員・評議員（2024年4月1日現在）

【役員】	理事長 池坊 美佳	【評議員】	池坊 美佳、	桶谷 守、
	学長 桶谷 守		岡山 栄雄、	土屋 郁剛、
	常務理事 郷端 清人		大島 利郎、	優谷 省子
	理事 松井 邦子		郷端 清人、	星野 美由紀
	理事 土屋 郁剛		城野 眞理子、	松井 邦子、
	理事 岡山 栄雄		伊東 光子、	森川 佳代、
	理事 小林 章博		林 俊之、	村田 久美子、
	理事 波頭 亮		前田 正美、	上野 絵理子、

理事	加賀 裕郎	森田 信子、	山本 光代、
監事	小林 一郎	小林 章博、	亀田 晃巖、
監事	平岡 彰信	波頭 亮、	中永 健史、
		西原 芙美香、	加賀 裕郎

(3) 教職員の概要

池坊短期大学	学長	桶谷 守
	副学長	松井 邦子
池坊文化学院	学院長	土屋 郁剛

法人職員 1名

短期大学教員	文化芸術学科	1名	
	環境文化学科	15名	
	幼児保育学科	6名	計 22名

短期大学職員 計 20名 合計 42名

1. 学園の基本方針

2023年度は、募集停止を決断するにあたって、関係省庁、教職員、学生、父母、卒業生、近隣の関係者、協定校など関連の高等学校、関係企業、マスコミなどに対して丁寧な説明を展開し、当初想定した手順に従って募集停止を無事に進めることができた。

2024年度からの重要な課題としては、学生への教育保証、教職員への再就職支援、さらには、短期大学の閉校処理と学校法人を解散した場合、卒業後の「3年サポート」および学籍簿の管理や卒業証明書の発行などの責任体制、また、学校法人が有している全ての資産について、次にどのような組織に移管するかなどを考えていかなければならない。そして、これら一連の諸事業に必要な資金をいかに確保するかが重要な課題であり、2024年度は、これらの課題を完遂することを基本方針とする。

2. 2024年度 主な事業内容

(1) 財政基盤の確保

2024年度の帰属収入や資金残高を考慮すると2024年度中に資金ショートすると予想しており、まずはそれを回避するための資金確保を確実にする。加えて、2024年度生および現有の全ての在学生在が卒業した後に、学校法人を閉じるまでに必要な資金を保証する財政基盤を整備する。予算執行については、学生の教学条件および学生支援を基本におきつつ、教職員の人件費や施設管理の経費を確保しながら支出の抑制を考慮し、慎重に実施していく。

(2) 教学運営の体制維持

2024 年度から最も注力しなければならない課題は、学園の基本方針でも述べたように学生の教育保証である。そのためには、教学運営を支える教職員体制を常に万全なものとしなければならない。

(3) 教学と学生支援

2023 年 9 月に 2025 年度以降の学生募集停止を決定した本学は、2024 年度に最後の入学生を迎え入れる。この学生たちが本学のディプロマポリシーを達成し、2 年後には無事社会へと送り出すことが、教育機関としての本学の最大の目的となる。コロナ禍で高校生活に何らかの影響を受けた学生たちに、より理解しやすく学びやすい体系となるよう昨年度に再構築したカリキュラムを基に、非常勤講師の削減を軸に再構成した教員体制で、目的達成のための短大教育の質を担保していく。特に、「学び支援担当」を設置し、コース責任者を中心とした教育サポートを行う。また昨年度に設置した「学生支援センター」による、担任、コース・学科、保健室、カウンセリングルームが一体となって連携するきめ細かい学生サポートを行い、円滑な対応を行うことで、本学の教育を側面から支えていく。

(4) 研究

池坊文化学会は、教員・学生を含めた交流の場として研究大会や研究誌の発行を行う母体としての活動が定着してきた。これを 2024 年度も継続していく。また、華道文化研究所は、70 周年をめぐりて学園ならびに短期大学の歴史的資料を収集し、記念としての歴史をまとめた。こうした活動を整理し、総括していく。

(5) キャリア支援

2024 年度 2 年次生についてはサービス業界の業績回復に伴う求人数増加の好機を逃さぬよう、学生の成長を促しながら丁寧なサポートを継続する。1 年次生についても早期からの支援を行い、1 学年のみの在籍となり閉校が実感される 2025 年度になっても安心して進路決定活動に取り組めるような関係性作りを強化する。

(6) 施設整備

2023 年度に予定していたが、機器調達が間に合わず繰り越された高圧受電設備の更新を本年度に実施する。これ以外の経年劣化が進んでいる施設・設備等については、学生の教育環境の保証および学生支援のために必要な施設整備に限って、実施の検討をおこなう。

以上